地域観光

名湯（炭酸泉）の生かし温泉街の活性化進める

大分県 長湯温泉

現地レポート

長湯温泉街。清流芹川沿いに旅館が建ち並ぶ。右手前に温泉地のシンボル「ガニ湯」

九州中部、くじゅう連山のふもとに位置する長湯温泉（大分県竹田市）は、炭酸ガスの含有率が極めて高い、全国でも稀有な温泉で知られる。豊富な湯量も自慢で、ほとんどの旅館と温泉施設が自家源泉を保有、すべての施設がかけ流しで使っている。古くから多くの文人墨客が訪れた、文化の香り漂う温泉地でもある。温泉街の活性化に向けた取り組みも活発。名湯が多い九州の中でも全国区になる可能性を大いに秘めた温泉地だ。

「ガニ湯」。ガニ（カニ）と人間の恋を描いた伝説が残る公共の露天風呂

長湯温泉は昨年度の「にっぽんの温泉100選」（観光経済新聞社主催）で91位にランクされ、今年の中間発表でも94位につけ、2年連続のベスト100入りが有望。さらなるランクアップも見込まれる。

温泉地の歴史は古く、今から350年前、この地域を統治していた岡藩主の3代目、久清公が趣味の山登りのあとにこの湯で疲れをいやした、という逸話が残っている。

その後は湯治場として発展。与謝野晶子、徳富蘇峰、川端康成など多くの文人もこの地を訪れた。現在、旅館組合加盟の14軒を含め、約30の温泉施設が建つ。

温泉の泉質は源泉により微妙に異なるが、炭酸ガスの含有率は全国の温泉でも屈指のもの。作家の大仏次郎がこの湯を「ラムネの湯」と評して血行を促進。心臓病や高血圧にも効果があるといわれる。温泉は飲用もでき、慢性消化器病や肝臓病に効くという。

稀有な温泉に化粧品メーカーも注目。温泉水を利用した化粧水も商品化されている。

同温泉「大丸旅館」の首藤勝次社長は、国土交通省認定の「観光カリスマ」のひとり。現在は社長業とともに大分県議会議員を務めている。過疎化が進む直入町（当時、現在は合併で竹田市）の活性化を目指し、保養療養地の先進地ドイツに学び、同地との国際交流を推進したほか、温泉地のシンボルとなった日帰り入浴施設「御前湯」の開業や、町内各地の飲泉所の整備に尽力した。

御前湯。岡藩主専用の湯「御前様の湯」が名の由来

九州初の「源泉かけ流し宣言」

ラムネ温泉館。高濃度の炭酸泉を持つ。２階に川端康成と高田力蔵画伯ゆかりの展示も

ラムネ温泉館の飲泉場。温泉をペットボトルに詰めて持ち帰る客も多い

一連の事業を通して年間20万人程度だった交流人口は昨年80万人まで拡大した。

昨年5月には九州で初という「源泉かけ流し宣言」を行った。また今年6月には「第3回源泉かけ流し 全国温泉サミット」が開催され、十津川、川湯・摩周、関、野沢、糠平など、同温泉と同様「源泉かけ流し宣言」を行った温泉地から関係者が参加。温泉、湯治に関する講演やパネルディスカッションが行われた。

温泉街ににぎわいを広めようと、今年11月14日から1週間、地元竹田市に伝わる伝統行事「竹楽」を再現。約3千本の竹灯籠が夜の温泉街を装飾した。活性化に向けた新たな取り組みはこれからも進める方針だ。【森田淳】

くじゅう連山を背景に広がる温泉街

温泉街に装飾された竹灯籠

湯の花が浴槽一面に漂う。温泉の強い効能を印象づける（湯処ゆの花）

木造３階建ての旅館が並ぶ戦前の温泉街。古くから湯治場として栄えた

温泉目的に旅行 来訪地1位は別府

大分県　18年度宿泊アンケート

大分県企画進行部観光・地域振興局がまとめた「平成18年度宿泊客アンケート調査報告書」によると、同県を旅行した客の来訪目的は「温泉」、宿泊した市町村は「別府市」が最も多く、宿泊費の平均は1万8286円だった。

旅行の主な目的は「温泉」が56・4％で最も多く、以下「ビジネス」（18・7％）、「名所・旧跡見学、寺社参拝」（18・5％）、「自然風景鑑賞」（同）、「グルメ、食べ歩き」（15・7％）――の順。

大分県を旅行先に選んだ理由でも「温泉に魅力を感じる」が58・4％と数を占めて首位。これに「自然が豊か」（32・7％）、「食べものがおいしい」（27・0％）、「宿泊施設に魅力を感じる」（20・5％）――など。

立ち寄った市町村は「別府市」（37・9％）、「由布市」（20・9％）、「大分市」（16・7％）がトップ3となった。

宿泊した市町村でも「別府市」（54・6％）が首位。「最も宿泊してみたい市町村」では「由布市」（29・6％）が首位になった。

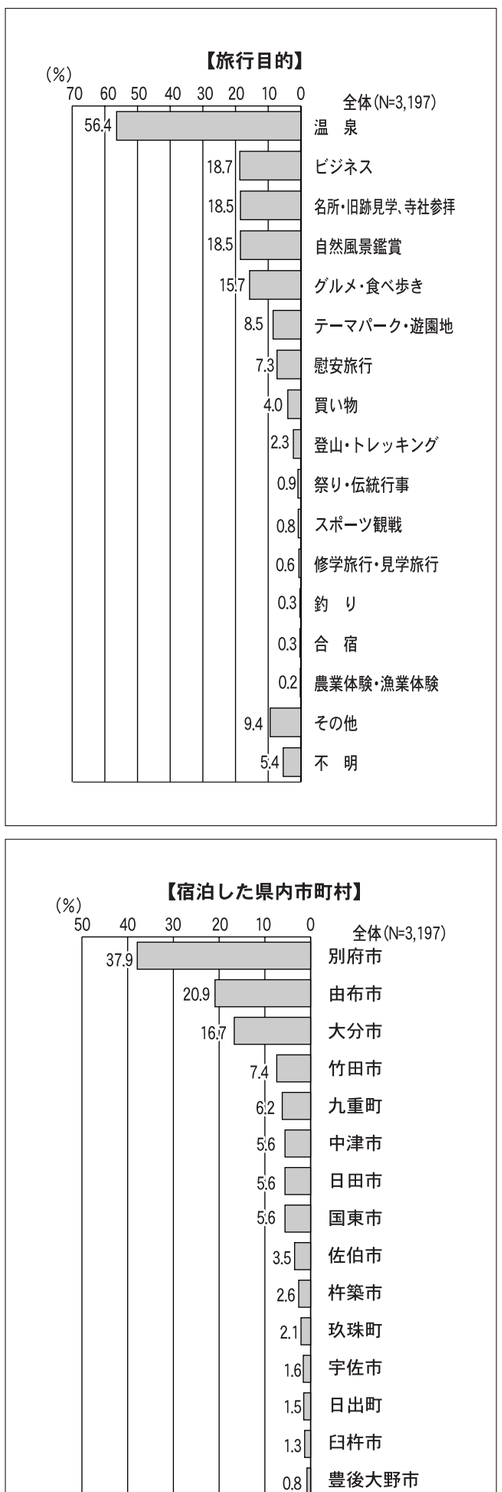
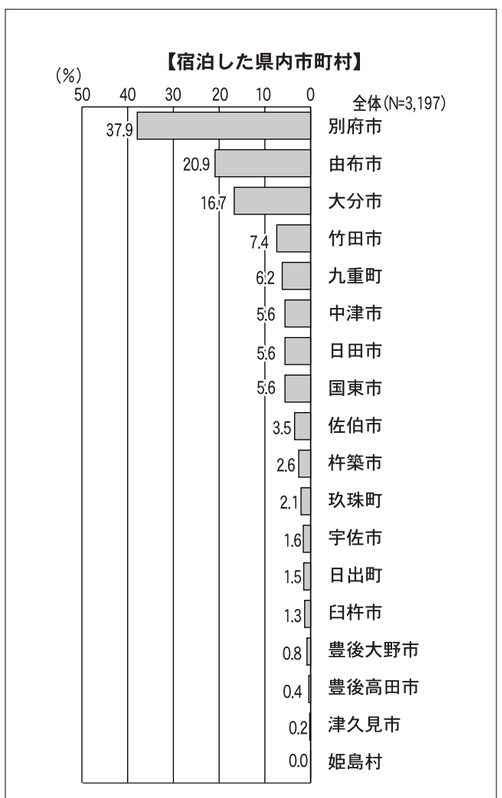
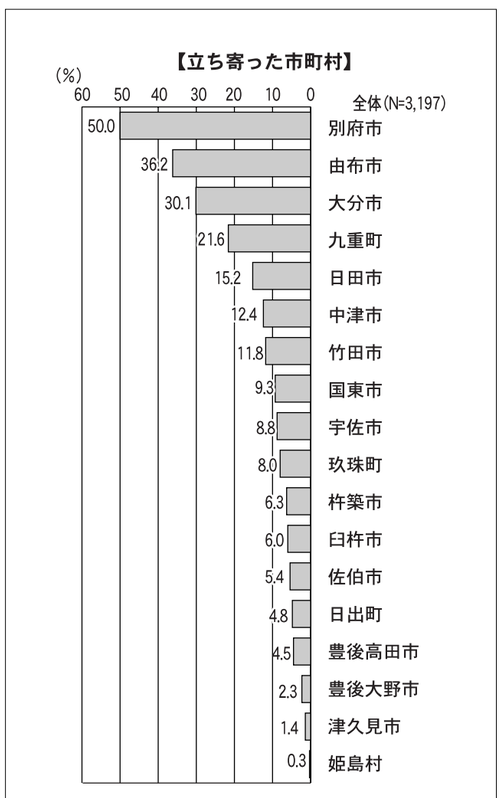
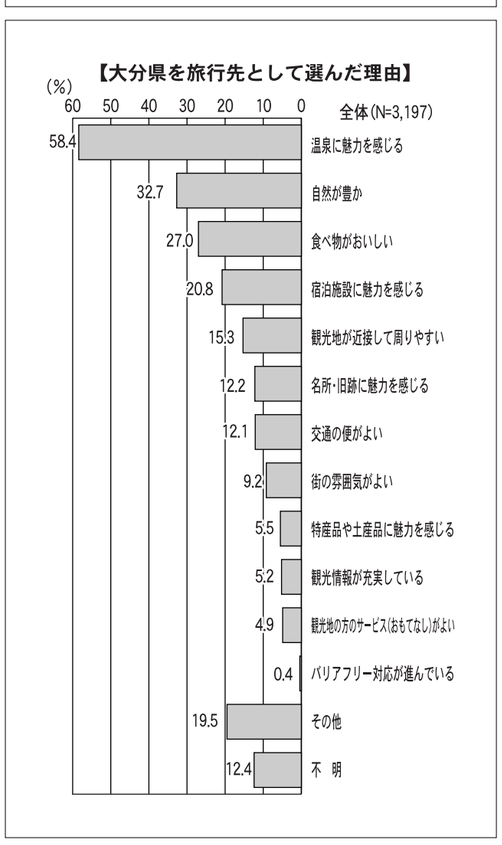
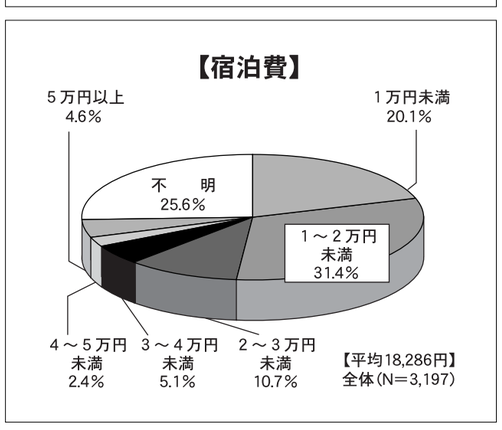
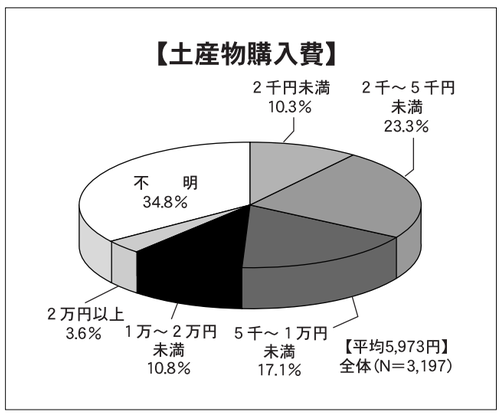
宿泊費は平均1万8286円

旅行全体にかかる1人あたりの費用は平均5万2265円。このうち宿泊費は平均1万8286円、土産物購入費は同5973円。

調査は昨年11月と今年2月、同県内の主要宿泊施設50軒の宿泊客に実施。2回の調査で計3197人が回答した。

「宿泊してみたい市町村」は「別府市」（54・6％）が首位。「最も宿泊してみたい市町村」では「由布市」（29・6％）が首位になった。

旅行全体にかかる1人あたりの費用は平均5万2265円。このうち宿泊費は平均1万8286円、土産物購入費は同5973円。

調査は昨年11月と今年2月、同県内の主要宿泊施設50軒の宿泊客に実施。2回の調査で計3197人が回答した。

調査データ